

## AEARU体験談

### 東アジア全体の文化的交流や 人的交流

2008年AEARU分子生物学・  
生物工程ワークショップ



平成20年3月24日～3月27日 香港科技大学

今回参加した第9回「AEARU分子生物学・生物工程ワークショップ」研究会において、「The mitotic phosphorylation on Ser-402 of MAN1 regulates the binding of MAN1 to BAF」と題し、本申請者の最新の研究に関して発表（ポスター発表）を行った。

本研究会は東アジアの研究型大学連合の交流を目的として開催されたもので、東アジアの14カ国、15の大学からおおよそ100人が参加し、19題の口頭発表と32題のポスター発表による活発な議論が行なわれた。申請者が行なったポスター発表も好評で、発表に割り振られた2時間を過ぎてても活発な意見・情報交換を行う事ができた。一方、本研究会は、我々が主に参加する学会・研究会とは目的を異にし、研究のみの交流に留まらず、東アジア全体の文化的交流や人的交流も目的としている。研究会終了後のレセプションでは、多くの学生との交流を持つことができ、非常に有意義であった。

京都大学大学院生命科学研究科  
特定研究員 平野 泰弘

## AEARU事務局

### AEARU Secretaryの役割

平成20年1月1日～平成21年12月31日  
京都大学



現在、京都大学総長は2008-2009の2年間の任期でAEARUの議長を務めているので、事務局もこの期間、京都大学に置かれています。AEARU Secretaryという事務局担当者が議長により指名され、AEARUの年次総会で承認されます。AEARU Secretaryとして、私の主な仕事はAEARUの加盟大学の国際部職員と協力して、加盟大学間の良好なコミュニケーションと意思疎通を確保し、AEARUのさまざまな活動やイベントの企画・調整に支援を行うことです。事務局の重要な役割の一つは、AEARUの年次総会と年次理事会が円滑で効果的に行われるようにすることです。年次総会と年次理事会は、毎年、提案のある加盟大学のキャンパスで開催されており、それらの会議は、議長校が他の加盟大学と協力して、AEARUの活動を企画運営する積極的な役割を果たしています。

京都大学が議長校という中心的な役割を果たしている中で、特に、本学の研究者・学生が積極的にAEARUの活動に参加・交流することを心からお祈りしています。



国際部国際交流課  
特定職員 Ainslie KERR  
(エイズリー・ケアー)

APRU・AEARUには世界の最先端大学が加盟しています

### APRU加盟大学

オーストラリア	Australian National University University of Melbourne University of Sydney
カナダ	University of British Columbia
チリ	University of Chile
中国	復旦大学 香港科技大学 南京大学 北京大学 清華大学 香港大学 中国科学技術大学 浙江大学
台湾	台湾大学
インドネシア	University of Indonesia
日本	慶應義塾大学 京都大学 大阪大学 東北大学 東京大学 早稲田大学
韓国	Korea University Seoul National University
マレーシア	University of Malaya
メキシコ	National Autonomous University of Mexico Tecnológico de Monterrey
ニュージーランド	University of Auckland
フィリピン	University of the Philippines
ロシア	Far Eastern National University
シンガポール	National University of Singapore
タイ	Chulalongkorn University
アメリカ合衆国	California Institute of Technology Stanford University University of California, Berkeley University of California, Davis University of California, Irvine University of California, Los Angeles University of California, San Diego University of California, Santa Barbara University of Oregon University of Southern California University of Washington

### AEARU加盟大学

中国	復旦大学 南京大学 北京大学 清華大学（北京） 中国科学技術大学 香港科技大学
台湾	台湾大学 清華大学（新竹）
韓国	韓国科学技術院 浦項工科大学 ソウル大学
日本	京都大学 大阪大学 東北大学 東京工業大学 東京大学 筑波大学

編集・発行 京都大学  
国際部国際交流課  
住所：〒606-8501  
京都市左京区吉田本町  
電話番号：075-753-2079

# APRU

Association of Pacific Rim Universities

## 環太平洋大学協会

# AEARU

The Association of East Asian Research Universities

## 東アジア研究型大学協会

世界の最先端大学から学ぼう！



## APRU



環太平洋大学協会 Association of Pacific Rim Universities

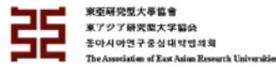
APRUは、1997年に環太平洋圏の主要大学の学長の提案により発足し、現在16か国（地域）42大学が加盟し、環太平洋圏の主要大学間の相互理解を深めることを通じて、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題（たとえば、経済発展、都市化、技術移転、自然・環境問題など）に対し、高等教育機関の立場から教育・研究の分野から協力・貢献することを目的とする世界有数の大学連合です。

APRUの目標は、環太平洋地域社会の発展にとって、効果的な貢献を果たすことにありますが、これはAPEC（アジア太平洋経済協力会議）の環太平洋諸国共同体の創設のための取り組みにも類似していると言われています。

京都大学はAPRUの創設メンバー校です。

詳細はウェブサイト参照 → <http://www.apru.org/>

## AEARU



東アジア研究型大学協会 The Association of East Asian Research Universities

AEARU（アール）は、1996年に香港科技大学及び浦項工科大学（韓国）の提唱によって結成され、現在4か国（地域）17大学が加盟しています。

AEARUは地域的・文化的な類似性を有するだけでなく、学術的プロフィール、教育目標及び学術研究・開発においても共通の関心を持つ東アジア地域の主要な研究型大学を結集し、研究者及び学生の交流、共通のカリキュラムの開発と単位の互換及び施設・情報・資料の共通利用など、相互の関心に基づく協力を行うことを目的とする有力な国際大学連合です。

京都大学は、2008-2009年のAEARU議長校として、積極的な役割を果たしています。

詳細はウェブサイト参照 → <http://www.aearu.org/>

APRU・AEARUでは、年間を通じて、世界各地の加盟機関でさまざまな分野の会議やワークショップなどを開催しており、京都大学からも、毎年たくさんの教員や学生が参加しています。毎年夏に開催されるAPRU博士課程学生会議とAEARUサマーキャンプは、海外の学生と約1週間寝食を共にし、テーマに基づく討論や文化交流を行うもので、とくに人気の高いプログラムです。APRU・AEARU事業の参加者の募集は、国際交流課が窓口となり、各部局事務部へ通知しています。また、京都大学ホームページにも募集案内を随時掲載していますので、興味のある方はぜひご応募ください。



APRU Undergraduate Summer Program 2008

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/international/coalition/>

## APRU主な活動

- リサーチシンポジウム
- APRU博士課程学生会議
- APRU学部学生サマープログラム
- APRU遠隔教育とインターネット会議 他



APRU 2008 Doctoral Students Conference

## AEARU主な活動

- リサーチシンポジウム
- AEARUサマーキャンプ（ジェネラル、トピカル）
- AEARUウェブ技術・コンピュータ科学ワークショップ
- AEARU分子生物学・生物工学ワークショップ 他



The AEARU Workshop on Collaboration among Universities in the Ubiquitous World

## 参加者の笑顔想像して

第10回APRU博士課程学生会議

平成21年7月6日～10日 京都大学  
（準備期間 平成20年4月～）



まだ見ぬ人の笑顔想像することはなんて楽しいことだろう。今回、第10回APRU博士課程学生会議の京都大学での開催のために集まった私たちは、「Promoting Originality and Diversity in Research」をテーマに、APRU加盟大学からやってくる約100名の博士課程学生の受け入れ準備を進めています。今回は各々の研究発表だけでなく、私たち独自にスペシャルワークショップを企画しています。グループディスカッションとプレゼンテーションコンテストを通して、国も文化も研究分野も違う学生が、お互いの理解を深め、研究の多様性を認めることができると考えています。さらに、これを通して、独創的な研究者に近づくことができたらと、ディスカッションのテーマ設定からどのようにグループワークを進めるか等、話し合っています。話し合いをしていると、同じ京都大学の実行委員の間でも、研究分野が違えば、常識が違うことに気がつきます。これが世界規模になるのだから、きっともって色々なことに気がつかるのだろうと今からワクワクしています。



私たちは、そんな参加者の「気づき」の笑顔想像しながら、まさに笑顔を創造することに携わっています。

工学研究科 博士後期課程2年 北村恭子

## 科学、工学、社会学的など さまざまな分野で手を組んで

2008 APRU「環太平洋地域におけるマルチハザード」に関するリサーチシンポジウム

2008年8月21日～22日  
カリフォルニア大学デイヴィス校



今回のデイヴィス校でのシンポジウムは米国、日本、台湾、ニュージーランド、シンガポール、タイ、およびスリランカからおおよそ35人が出席した。津波、地震、山火事などの自然災害に関するさまざまな研究を網羅した28の発表があった。高性能計算とデータベースにより、自然災害に関する研究をサポートする技術開発に関する発表も行われた。各発表のあとは打ち解けた雰囲気の中、関係者の中で議論をさらに進展させている場面も多くみられた。大規模な自然災害の研究と効果的な対処のためには、科学、工学、社会的などさまざまな分野で手を組んで考えていく必要があることが認知された。これはシンポジウムの間中繰り返された共通のテーマであった。会議を計画・運営し、楽しく刺激的な場を提供してくださったカリフォルニア大学デイヴィス校の主催者のみなさまに感謝します。

防災研究所 教授 MORI, James Jiro